

広報

# あまのい (天の医)

2025  
(秋号) No.2



棚田（日之影町）

国道218号線沿いから望む、黄金色に色づいた稲穂が美しい棚田は秋ならではの風景です。左奥に見える日之影中学校は中世ヨーロッパの古城を彷彿とさせ、多くの方たちの目を惹きます。



西臼杵医療センター  
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

# センター長あいさつ

## ～西臼杵は医療の発祥地？～

センター長（西臼杵広域行政事務組合 病院事業管理者）の「寺尾公成」でございます。西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」No.2（2025年・秋号）をお届けします。待っておられた方にも、たまたま目に触れられた方にも、ご一読頂ければ幸いです。

さて、当センターは令和6年4月に発足し、「経営統合」と「機能再編」を旗印に、2年目の運営が進行しているところであります。3つの国保病院（高千穂・日之影・五ヶ瀬）間で、1年目には「救急医療」問題を、そして2年目となつた今年度は目下「医療と介護の連携」問題を課題として、地域医療の進化に取り組んでいます。

ところで皆さん、「蛭子（ひるこ）伝説」というお話をご存じでしょうか。「天照大神（あまたらすおおみかみ）」は、日本最古の神とされる「伊弉諾尊（いざなぎのみこと）」と「伊弉冉尊（いざなみのみこと）」の間に生まれた太陽神であることは、周知の事実であろうかと思ひます。古事記などによると、天照大神は第3子で、第1子は「ひるこ」、第2子は「あわしま」と称され、二人とも障害者であったことが記されています。伊弉諾尊と伊弉冉尊の夫妻は、第1子が生まれつき身体が異常に柔らかかったので、蛭子のような子「ひるこ」と名付けました。しかし、3歳になつても歩けなかつたことから、葦の舟で海に流してしまつたそうです（図1）。【江戸時代の国学者で小児科医でもあつた本居宣長は、その症状から周産期の異常に伴う脳性麻痺か先天的な筋萎縮症ではなかつたかと推察しています。】しかしその後「ひるこ」は漁民に救われ、のちに七福神の仲間入りをし、大黒様とのコンビで有名な「ゑびす様」として崇められました。図2のように大黒様は立つてますが、ゑびす様はいつも座つてゐる姿しか描かれていないようです。「ひるこ」は、障害をもぢながらも見事な活躍を遂げたことから、「リハビリテーションの祖」とも呼ばれています。（参考：花田春兆著「日本の障害者」など）。神話でもあり、真偽のほどは分かりかねますが、太古における障害者観の一端を垣間見ることができます。ちなみに、第2子の「あわしま」は、知的障害を伴つていたとも伝えられています。そして、第3子が、天照大神で、太陽神と称され、神明神社の総本社である伊勢神宮を始めとして、西臼杵郡高千穂町の天岩戸神社に祀られています。

という訳で、高千穂に代表される西臼杵地区は日本神話の発祥地であるばかりか、医学と医療を考えさせられる発祥地でもあつたのかもしれません。そんな八百万神々の聖地で地域医療がレジリエントに進化していくことを願つて止みません。

今後とも、西臼杵医療センターの広報誌「広報 あまのい（天の医）」へのご助言、ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。



図1



図2

“医療とは、理路整然とした科学と心溢れる情熱の融合である。”

令和7年10月吉日  
西臼杵医療センター  
センター長 寺尾公成

# 「コンビニ受診の抑制にご理解を」

地域医療を守るためにご協力ください

## コンビニ受診っていったい何？

夜間や休日などに、緊急性が低い症状で救急外来を受診することを「コンビニ受診」と呼ぶことがあります。西臼杵医療センター（高千穂町国民健康保険病院・日之影町国民健康保険病院・五ヶ瀬町国民健康保険病院）は、地域の皆さまの健康を24時間体制で支えるため、日々尽力していますが、緊急性の低い症状での休日・夜間帯の利用は、いくつかの課題が生じます。

## コンビニ受診が引き起こす課題とは？

### 1 重症患者さんへの対応の遅れ

緊急性の高い重症患者さんへの対応が遅れる可能性があります。  
限られた医療資源（医師、看護師、医療機器など）を有効に活用する  
ためには、緊急性の高い重症患者さんを最優先で診察する必要があります。



### 2 医療従事者の負担増大

急を要しない時間外受診は、医療従事者の疲弊に繋がり、結果として医療サービスの質の低下を招く恐れがあります。

これらのことから、地域の救急医療体制を維持することが困難になるおそれも出てくるため、コンビニ受診の抑制について啓発をおこなっているところです。ただし「コンビニ受診を控える」とは、

**決して無理をして我慢することではありません。**

平日の診療時間内受診を基本とし、発熱や風邪、軽い体調不良など、緊急性の低い症状の場合は、できる限り平日の診療時間内に受診してください。限られた医療資源を有効に活用し、医療を必要とする方々へ、迅速かつ適切な医療を提供するために、地域住民の皆さまのご理解とご協力が不可欠です。西臼杵医療センターは、これからも地域の皆さまが安心して暮らせるよう、質の高い医療の提供に努めてまいります。

## 受診の判断に迷ったら

### 「県北救急医療ダイヤル（無料）」 をご利用ください

（対応時間帯）

平日（月曜～土曜）／午後5時～翌朝8時  
日曜・祝日・年末年始／24時間対応

県北救急医療ダイヤルとは、「発熱」、「吐き気・嘔吐」、「胃痛・腰痛」、「発疹・湿疹」、「不安・緊張・落ち着かない」といったような比較的軽い症状の場合に、医師や看護師が医療機関受診の必要性や応急処置など、国内に限らず海外からの相談にもアドバイスをしてくれる電話相談サービスです。



【利用方法】①上記の専用ダイヤルにお電話ください。

②相談員に電話がつながりましたら、年齢・お住まいの市町村をお聞きしますのでお答えください。

③その後、症状等をご相談ください。

※相談内容等、ご利用者のプライバシーは守られますので、ご安心ください。  
※この電話相談は、診察や治療をするものではなく、助言によって相談者の判断の参考にしていくものであります。  
あらかじめ理解の上、ご相談ください。  
※「意識が無い」「多量の出血がある」等、明らかに緊急を要する場合には、すぐに119番にお進路ください。

問合せ先 延岡市地域医療対策室 ☎ (0982) 22-7066

事業団体 宮崎県北部広域行政事務組合 (延岡市・臼杵市・門川町・薩摩川内市・椎葉村・美郷町・高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町で構成)

# お知らせ

## 西臼杵救急ワークステーションを設置しました

西臼杵医療センターでは、西臼杵消防本部と連携して、令和7年4月1日から高千穂町国民健康保険病院に「西臼杵救急ワークステーション」(通称：NEWS)を設置しました。

NEWSとは、医学的知見に基づく専門的な研修機会が少ない救急隊員の知識と技術の向上を図ることを目的に設置されたもので、週に1回消防本部から救急車1台と救急隊員3名が高千穂町国保病院を訪れ、出動態勢をとりつつ院内で応急処置や救命処置などの実習をおこなう生涯教育の拠点となるものです。実習中は医師や看護師の指導のもと、外来処置室では点滴や採血などを、病棟ではナーシングケアを中心に実習をおこないます。また月に1回は、指導者として県立延岡病院救命救急センター長の金丸勝弘先生にお越しいただき、救急隊員と外来スタッフとで合同の勉強会を開催するなど、お互いに救急医療に関する知識と技術の向上を図っています。

さらに、実習中に救急出動要請があった場合には、医師や看護師、病院救命士が同乗して、救急隊員の現場活動を直接評価したり、患者の状態によっては必要な医療行為をおこなったりしています。このNEWSの取り組みによって、消防機関と医療機関の連携強化が図られ、救急医療体制の強化と救命率の向上が期待されます。郡民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



## 病院見学の様子と感想紹介



今回は見学を受け入れてください、ありがとうございました。高千穂町国保病院を見学させていただくのは初めてだったのですが、実際に施設を見ることで設備がたいへん充実していることを改めて知ることができました。職員の方々が丁寧に説明してくださったおかげで、とても楽しく見学でき、地域医療に貢献できる薬剤師になりたいという気持ちが強まるとともに、自分も将来このような場所で働きたいと思いました。病院の施設設備以外にも奨学金などの支援制度のことも説明してください、ぜひそのような制度を活用してみたいと思いました。

## 編集後記

最近、朝晩の冷え込みがぐっと増し、一気に秋らしくなりました。今回の広報誌第2号の背景は私が思う秋っぽい色にしてみましたが、みなさんが思い浮かべる秋の色はどんな色でしょうか。

今後も、センターの“今”をわかりやすく、親しみやすくお伝えできるよう、工夫を重ねていきますので次号もどうぞお楽しみに！ 広報担当 廣本旭悦



西臼杵医療センター  
NISHIUSUKI MEDICAL CENTER

〒882-1101

宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井435番地1

TEL: 0982-73-1715

FAX: 0982-73-1718

URL: <https://www.nishiuzuki-hp.jp/>

